殺菌剤

アタッキン® 水和剤

登録番号　第 13833 号
性　　状　類白色水和性粉末　45μm 以下
有効期限　4 年
毒　　性　普通物（毒劇物に該当しないものをさしていう通称）
包　　装　（100g×25 袋）×4 箱、500g×20 袋

日曹の農薬

有効成分　ストレプトマイシン硫酸塩　18.8%（ストレプトマイシンとして 15.0%）、チオファネートメチル　50.0%
種 類 名　ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤　殺菌剤分類　25,1

■特　長

1. 多くの病害に効果の高いトップジン M と細菌性病害に有効なストレプトマイシンの混合剤で、より効率的な防除が期待できます。
2. 作物への浸透が強く、優れた殺菌力を示し、予防・治療効果ともに優れています。
3. 細菌性病害と糸状菌による病害の同時防除に適しています。

製品ページはこちら

■適用病害名及び使用方法　（2025 年 11 月 21 日現在）

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	使用方法
もも	せん孔細菌病	1,000	200～700 L/10a	収穫60日前まで	2回以内	2回以内	10回以内（塗布は3回以内、休眠期の散布は1回以内、生育期の散布は6回以内）	散布
	黒星病							
うめ	かいよう病	800～1,000		収穫90日前まで			6回以内（塗布は3回以内、散布は3回以内）	
	黒星病							
こんにゃく	乾腐病	1,000	–	貯蔵前又は植付前	1回	6回以内（種いもへの処理は1回以内）	1回	1時間種いも浸漬
	腐敗病							
	乾腐病	30	平置きした種いも1m²当り150mL	植付前				種いも散布
	腐敗病							
ばれいしょ	黒あざ病	40	–			5回以内（種いもへの処理は1回以内）	5回以内（種いもへの処理は1回以内）	5～10秒間種いも浸漬
	黒あし病							
	黒あざ病		種いも100kg当り2.5～3L					種いも散布
	黒あし病							
	そうか病							
		40～60	–					5～10秒間種いも浸漬
たまねぎ	軟腐病	800	100～300 L/10a	収穫7日前まで	5回以内	5回以内	7回以内（種子への処理は1回以内、苗根部浸漬は1回以内、無人航空機散布は3回以内、散布は5回以内）	散布
	灰色腐敗病							
キャベツ	菌核病	1,500		収穫14日前まで	2回以内	2回以内	3回以内（種子への処理は1回以内、は種後は2回以内）	
	黒腐病							
はくさい	軟腐病	1,000				3回以内		
	白斑病							
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.2～0.5%	–	貯蔵前又は植付前	1回	1回	5回以内	球根粉衣
	かいよう病							

⚠ 効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、速やかに使いきってください。
2. ボルドー液及び石灰硫黄合剤などアルカリ性の強い薬剤との混用はさけてください。
3. 本剤の連続使用によって、薬剤耐性菌が出現し、効果の劣るおそれがあるので、過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用してください。
4. チューリップの球根消毒に使用する場合、発根後に処理すると薬害をおこすおそれがあるので、根が動き出す前に処理して植付けてください。
5. 薬害として黄白色の斑点が散布した葉に現れることがあります。これは植物の種類、環境により差があり、特に高温多湿時におこりやすいですが、通常一週間位で消失してしまうので作物に対する実用上の影響は認められません。但し、はくさいについては高温時又は幼苗時には使用しないでください。
6. キャベツに対しては、薬害を生じやすいので、高温条件下での連続散布はさけてください。
7. ばれいしょの種いも消毒に使用する場合は下記の事項に注意してください。
   (1) 萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生じるのでさけ、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽・生育の遅延が助長されるので、春先の気温の低い地域では注意してください。
   (2) 浸漬処理の場合、浸漬時間が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害を生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。
   (3) 散布の場合は、種いもを床等に十分に広げ、種いも 100kg 当たり 2.5 ～ 3ℓの割合で種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布してください。
   (4) 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくと発芽遅延等の薬害を生じるので風通しのよい場所ですみやかに乾燥させてください。
   (5) 種いもを切断する場合は、処理した薬液が十分乾いてから行ってください。
8. 本剤で処理した種いもは食糧や動物飼料に用いないでください。
9. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
10. 本剤を使用した場合には、ベノミルを含む剤を使用しないでください。ただし、種子への処理、種籾への処理及び塗布処理は除きます。
11. 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意



12. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
13. 使用の際は、防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
14. 作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯してください。
15. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

● 水産動植物への影響

水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残粉及び容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 保管上の注意

密封し、火気や直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。
●小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋は圃場などに放置せず、適切に処理してください。